

# 会報15号

2017年4月25日

電話 075-691-7561  
 発行責任者 木村信彦 会長  
 編集責任者 石田房一 統括顧問  
 広報編集部長 松田誠二 広報部長  
 編集部員 清水美優・西片里紗  
 木村亜衣・永田裕哉



*It has been designated an Important Intangible Folk Cultural Property.  
 Kisyoin Rokusai Nenbutsu Odori. Designated in 1983.*

国の重要無形民俗文化財指定  
 吉祥院六斎念仏踊り



## 民衆が受け継ぐ多彩な芸能 吉祥院六斎念仏踊り

吉祥院六斎歴史研究会 会長 木村信彦

平安期に空也上人が念仏の喜びを表現したことをルーツとする「六斎念仏踊り」(国指定重要無形民俗文化財)が吉祥院地域で受け継がれています。

吉祥院天満宮で毎年四月二十五日、八月二十五日に六斎が奉納されます。激しい太鼓の掛け合いや動化風の踊り、獅子の華麗な動きで観衆を魅了します。

太鼓を中心とする古風で素朴な「念仏六斎」に対し、現在では踊りや獅子舞、能や狂言、歌舞伎など娯楽性を加えた「芸能六斎」が主流となっています。

芸能六斎の基本的な演目は、十数曲を約二時間かけて演じます。大太鼓の乱れ打ちで開幕し、御詠歌「発願」で念仏が奉納されます。続いて、お月さん、朝野、鉄輪と続き、「四つ太鼓」の技が披露され、賑やかな「祇園囃子」と移ります。クライマックスの「獅子と土蜘蛛」で獅子が華麗に舞台を練りまわる華やかな出

し物を得意とする吉祥院六斎念仏踊り「獅子と土蜘蛛」では、善悪を逆転させ、土蜘蛛が仏の化身として、田畑を乱

## 六斎念仏踊りの誕生



六斎念仏踊りの誕生の起源には、様々な説があります。

平安時代、空也上人が始めたといわれる踊躍念仏が起りこりとされていきますが、どのような歴史を経て、現在のようになつたのか、正確な裏付ける資料は存在しません。

推察されるのは、江戸時代中期、現在の「六斎念仏」と呼ばれているような芸能が成立していました。仏教では月の(八・十四・十五・二十三・二十九・三十)の六日間を六斎日とし、この日は悪鬼が現われ民衆に災いを齎すとされ、この日に太鼓を打って念仏を唱えることから「六斎念仏」と称されるようになりました。後に、六斎念仏は変換

す獅子を退治します。高度な技術を誇る吉祥院六斎念仏踊りは、ベテランの技術を受け継いだ子どもたちが見事なバチさばきを披露します。京都の六斎念仏踊りは、江戸時代に洛中の流行芸や祭事を見物した近在農家の人たちが見よう見まねでアレンジしたことが演目の土台となっています。

し、念仏踊りを主とする「念仏踊り」と風流化して、能や歌舞伎の演技を取り入れた娯楽性が進んだ「芸能六斎系」の二系統に分かれて伝承されています。

六斎念仏踊りは、現在、京都市内十五箇所伝承されており、それぞれ独自の特色を持ち、演目にもいくらかの違いがありますが、共通して言えることは、千年以上続く伝統の誇りと、厳しい稽古が生み出した、民衆自身の芸能であるからです。京都の三大祭と言え、祇園祭、時代祭、葵祭が代表されますが、六斎念仏踊りは、どちらかと言え、町衆の祭りであって、当時の農民や庶民

にとつては三大祭よりも親しみやすいものでした。

平安時代後期、吉祥院天満宮の祭礼に、獅子舞を奉納したのが始まりだという説と、一五八二年(天正十)、「本能寺の変」で織田信長を自刃した明智光秀と「主君の仇討ち」を大義名分に揚げた豊臣秀吉との天下分け目の戦い、いわゆる、豊臣秀吉と明智光秀との「山崎の合戦」において、豊臣秀吉勢に敗れた明智光秀勢の残党が、吉祥院の地まで敗走し、討たれ息絶えたのを吉祥院村の人らが弔ったのが起りこりと伝えられています。

吉祥院学区の中心の鎮守の森に囲まれた「吉祥院天満宮」は、菅原道真公の生誕された由来ある所であり、その遺跡・史跡「硯の水」・「鑑の井」など数多く残されています。吉祥院天満宮の年間行事うち、四月二十五日(春季大祭)、八月二十五日(夏季大祭)は、広い境内に露店が立ち並び、大勢の参拝客や観光客で賑わっています。午後八時、境内の舞楽殿で「六斎奉納」が行われる吉祥院六斎念仏踊りは、吉祥院地域に伝わる伝統文化財で国の重要無形民俗文化財に指定されています。

吉祥院六斎担い手育成基金「吉祥院六斎サポーター」にご登録いただいている企業や組織の皆様をご紹介させていただき、敬意を表します。

<p><b>NPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク</b>          理事長 野村良博</p>	<p><b>解放新聞社京都支局</b>          〒603-8151京都市北区小山下総町5番地の1          京都府部落解放センター内 代表 西島藤彦</p>	<p><b>株式会社新井建設工業</b>          〒601-8364京都市南区吉祥院石原南町16-24          代表取締役社長 新井正幸</p>
<p><b>吉祥院人権啓発企業連絡会</b>          会長 西留哲也</p>	<p><b>企 祥 会</b>          代表 山中兼一</p>	<p><b>岩本建設株式会社</b>          〒601-8361京都市南区吉祥院石原京道町31番地          代表取締役社長 岩本俊博</p>



# 吉祥院小学校三年生 地域の歴史文化に触れる



吉祥院小学校の三年生が地域に伝わる伝統芸能「吉祥院六斎念仏踊り」の歴史を学び、貴重な太鼓を体験し、吉祥院地域の歴史文化に触れる事業が行われました。



吉祥院小学校に通う三年生を対象に、六斎の授業を行います。今年も恒例になりつつある授業も、無事に終えることができました。協力くださった小学校関係者の方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

授業は一月二十三日と二月一日に分かれて行われ、二十四日の授業参観にはそれらを班ごとにまとめた発表会がありました。初日は吉祥院いきいき市民センターで、昔撮影された六斎の様子を映ったVTRを見たり、村田大輔さんの話を聞きながら六斎の歴史について学び、少しだけ四ツ太鼓などで使用される太鼓を体験してもらいました。そして後日、私たちが小学校に赴き、体育館で獅子や太鼓を披露。ここでも太鼓の体験をしてもらいました。質問時間に入ると、気圧されるくらい

勢いよく手が上がり、体育館に子どもたちの声が響いていました。六斎を始めたきっかけや、獅子の演者がどのようにしてアクロバットな技を披露しているかなど様々な質問が飛び、子どもたちが興味を示してくれている様子を見て私たちも嬉しくなりました。



子どもたちが四つ太鼓を体験

## 吉祥院子ども神輿 巡行

元来、子ども神輿は、神道である吉祥院天満宮の祭りの際、普段は神社にいる神霊の氏子(菅原町内会)が氏神を乗せる「輿」であるため「御神輿」と呼ばれる。氏子町会が神輿を持つ場合、これを「町会神輿」と呼び、この中で子どもが担ぐものを「子ども神輿」、大人が担ぐものを「大人神輿」、女性が担ぐものを「女神輿」と呼ばれる。

吉祥院子ども神輿は、昭和三十年代初頭、菅原町内会の住民からの寄付で神輿を制作し、氏神である吉祥院天満宮に奉納したのが起源になる。子ども神輿は、銅が箱型で内部が空洞の物を鳳輦(ほうれん)と呼び、小さいながらも素晴らしい神輿である。当時、子どもたちが大勢で担いだり、少子化に伴い、以後は大人が担ぐようになった。神輿を激しく揺さぶるのは、神輿に乗っている「神様の荒々しい御魂(みたま)」で、略して「荒魂(あらたま)」が乗っており、激しく揺さぶることによって、「荒々しい御魂」が発動し、神威を発揮



吉祥院六斎歴史研究会  
統括顧問 石田房一

ります。まだ夜遅い時間までお祭りに残ることができない小学生たちが、いつか大きくなって舞台を見た時に、自分も経験したことがあると思えると地域の伝統文化はそんなに遠くないことを知ってもらえると思います。また、子どもたちだけでなくこれを読んでくださっている方々にも、舞台上で行われている伝統芸能が遠い存在でないことを知っていたら幸いです。興味のある方は是非私たちにお声掛けください！

吉祥院六斎歴史研究会  
広報部 西片里紗

吉祥院六斎担い手育成基金「吉祥院六斎サポーター」にご登録いただいている企業や組織の皆様をご紹介させていただき、敬意を表します。

### 清華園

〒600-8202京都市下京区川端町11  
☎ 075-351-8391 店主 清水 悟

### 平井 斉己

Toshiki - Hirai

### 武田 徹

Touru - Takeda

### 井上工業所

〒601-8395京都市南区吉祥院中河原西屋敷町21-1  
☎ 075-311-7430 代表取締役 井上孝司

### ㈱ダイヤ・セキュリティ・ジャパン

代表取締役 石井啓介

### ㈱ 西 建

〒601-8343京都市南区吉祥院稲葉町31番  
☎ 075-661-2929 代表取締役 西留哲郎